「こころの窓」地理　　　　　　　　　　No、３３

こんにちは。今日も一緒に勉強しましょう。

今日のお題は「日本の自然災害」です。

　日本には昔から怖いものをたとえるときに「地震、雷、火事、オヤジ」という言葉があります。地震や雷は昔から恐れられてきた自然現象ですが、昔はオヤジ（父親）の存在も、ものすごく怖かったんですね。でも、今はだいぶちがいますね。

　ところで、今日は日本の災害について勉強します。自然の災害の中で最も恐ろしいのはやっぱり地震ですね。かつて大正の時代には関東大震災で、ものすごい被害を出した歴史があります。最近では、１９９５（平成７）年１月１７日に起こった阪神淡路大震災や、２０１１（平成２３）年３月１１日に起こった東日本大震災があります。地震はその規模によって、ものすごく広い地域まで被害が広がります。また、地震の後には津波（つなみ）や崖崩れ（がけくずれ）や土石流（どせきりゅう）や火事といった次の災害も引き起こすから、とても恐ろしい自然災害です。

　また、日本は火山が多いので、この火山の噴火による災害もあります。その他には台風の被害が大きいですね。毎年南の方から、何十回も台風がやってきます。台風によって家が壊れたり、高潮（たかしお）の被害が出ます。またこの台風で一番怖いのは、豪雨（ものすごい大雨）をもたらし、洪水（こうずい）や土石流で、たくさんの家が浸水したり流されたりすることですネ。

　こうした自然の災害を何度も経験してきた日本では、防災の対策も進んでいます。国や都道府県や市町村が、被害を受けた人々を救助することを公助（こうじょ）といいます。この公助は今までから行われてきました。そして、自分たちが自分たちの生活を守るために防災することを自助（じじょ）といい、この考え方も広まっています。さらに、日本のすばらしいところは、住民同士が協力して助け合ったりする共助（きょうじょ）の考えが当たり前のように行われることです。つまり、ボランティア活動がとても充実しているのです。東日本大震災の時に日本中からたくさんのボランティアが集まって、助け合っている様子がテレビで流れたときは、世界中の人々が感動をしたのです。そう考えると日本はすばらしい国ですね。

　それから、今までの自然災害から、ほとんどの都道府県や市町村では、いろいろな被害を予想したハザードマップがつくられています。たとえば、海の近くであれば津波や高波がどの地域まで被害が出る可能性があるとか、川の近くであれば洪水の被害がどのあたりまで予想されるのかなどが描かれた地図がつくられているのです。このハザードマップを元にいろいろな防災の設備が整えられます。また、新しく家を建てるときにも利用されています。これから家を建てようと考えている人に私のささやかなアドバイスですが、地震に強い家を建てることが大切です。鉄骨で建てるのが一番強いですが、木造でもいろいろな工夫がされ、地震に強い家を造ることができます。また、津波や洪水や土石流の心配がないかをハザードマップで調べることも大事ですよ。 建設会社の人に相談するといいと思います。ちなみに、もし私が次に家を建てるとしたら、平屋（ひらや・・・一階建ての家）がいいなと思っています。

お疲れ様でした。

ではまた、復習問題に進んでください。

復習問題

１．地震や台風などの自然災害から二つ選んで、その災害についてまとめてください。

　　①

　　②

２．自然災害に備えるためにはどんなことができるか、あなたの考えをまとめてください。

解答

１．＜地震＞

自然の災害の中で最も恐ろしいのはやっぱり地震です。かつて大正の時代には関東大震災でものすごい被害を出した歴史があります。最近では、１９９５（平成７）年１月１７日に起こった阪神淡路大震災や、２０１１（平成２３）年３月１１日に起こった東日本大震災があります。地震はその規模によって、ものすごく広い地域まで被害が広がります。また、地震の後には津波や崖崩れや土石流や火事といった次の災害も引き起こすからとても恐ろしい自然災害です

＜台風＞

毎年南の方から、何十回も台風がやってきます。この台風によって家が壊れたり、高潮の被害が出ます。またこの台風で一番怖いのは、台風が豪雨をもたらし、洪水や土石流でたくさんの家が浸水したり流されたりすることです。

２．＜自分の家や住んでいるところで、災害にどんな備えができるのか、自分の考えてまとめてみてください。＞

お疲れ様でした。ではまた次回のこころの窓で合いましょう。